

下流域の防災対策は

町長 受益者等の協力をいただきながら、できる限りの対応に努める

下流域の防災は

問

上流部の山腹崩壊等で被害が

起きた河川について、その被害箇所の水路の両側面、川底などをコンクリート等で修復工事をしたが、原状回復だけで終わってしまうことが多い。

上流部が頑丈に整備された河川であり、大雨が降ると、水流が下流部の狭い曲がりくねった水路を一気に破壊し、真つすぐに居住地まで土砂と濁流がおそってしまうことが、幾

つかの地区で起きている。上流部が整備された水路で、その下流域が狭ければ、被害を生み出すのではないか。どのように対処するか。

町長

平成25年の豪雨災害では、山腹崩壊等により、水路や河川に土砂や流木等が土石流となつて流れ込み、橋脚や暗渠をせき止め、被害をさらに大きくした。

対応策として、水路の受益者等の方々の協力をいただきながら、



石川重二議員

源八沢への対応は

問

源八沢について、県道の下を横断する水路があるが、上流部の幅員に比べると約半分くらい

の狭い水路となつている。県に現状を示し、改善してもらつてほしい。県に協議すべきではないか。

町長

あの地域は、少し大雨が降ると、常に浸水の危険性があると認識している。県や、それぞれの水路を管理する方々とも協議を進め、前向きに検討する。

支障物の撤去に努めるとともに、町としてもできる限りの対応に努めていく。



源八沢の洪水（赤坂地区）



洪水時における下流域被害の防止対策を！